Vol.．231　東京ホタル！隅田川を江戸紫色の光に染めて（平成24年5月10日）

かつて私の家の前の谷田には、初夏になるとホタルが乱舞して団扇を持って田のあぜ道を追いかけた記憶が今でも鮮やかに残っております。

もう一度夏の風物詩を取り戻したいと努力されて下さっている方達も多くおられます。

私の住む坂田でも毎年「ホタル狩り」を仲間達としており、３０年近くなります。郡、小糸、清和飯野本郷、大久保と噂を追いかけております。

また一方で「ホタルイルミネーションはないか？」と探し、見つかりましたが今年は既に品切れと言われがっかり致して居りましたら「東京ホタル」の話に接して亀山の伊原さんら８名で５月６日３時に君津を出発しました。心配された渋滞も全くなく、４時過ぎには浅草吾妻橋のたもとへきました。

石原都知事は数年前から「水と緑に包まれる東京―川のルネッサンス」を提唱されており、私も浅草三社祭りにはわざわざ浜松町河岸から隅田川を遡って浅草へ入ります。この春の花見も吾妻橋から屋形船で見物致して参りました。

東京ホタルを企画された方達も、もし隅田川にホタルがいっぱいいたならばとの思いを込めての企画だと聞いております。

５時を過ぎるころから雲行きが悪くなって参りました。伊原さんが「出かける時、濃溝の『幸福の鐘』を打ち鳴らして、今夜は穏やかな良いお天気であります様に！と祈願した。もしお天気が悪ければ『幸福の鐘』の御利益はない！」と言われた途端、猛烈な突風と雨が会場を襲って浅草の空は真っ暗になりました。「今夜はだめだ！」と観念いたしておりましたが、雨と突風は５～６分で跡形もなく過ぎ去って、真っ青な夜空が現れました。まさに『幸福の鐘』の御利益の証明！でありました。

午後６時３０分、上流の言門橋の両岸から東京ホタル（祈りの星）の放流が一斉に始まりました。

私達は運良くＢ１中央エリアが取れたので全景がよく見えるところでした。１つ1,000円の放流権を持つこのホタルは、ＬＥＤの光の球で川面へ着水すると発光する仕組みになっておりましたが、折からの引き潮に乗って下ってきたホタルの群れは淡い江戸紫色となって隅田川の川面いっぱいに広がって川の流れにゆったりと小さな浮き沈みを繰り返しながら一つ一つだったホタルはやがて大きな群れを作って下って行きました。

一つ一つの小さな淡い光の球が、川の流れの中で寄り添って、大きな光の輪となって流れていく光景は、今を生きる人達へのこれからの生き方の教えを感じておりました。

危険だからと拒否した川、生活排水を捨てた川をもう一度生き返らせようと願った東京ホタル。

戦後はきみつにはホタルがいっぱいでした。開発によって水が枯れ、農薬によってホタルもトンボもドジョウもいなくなりました。幸いにこの君津には再生できる条件をたくさん残してくれております。

少し時間はかかるでしょうが、夏の夜に懐かしいホタルが飛び交うきみつを再現して下さい。

１％支援事業を是非ご活用下さい。　　「ほたる火を　枕に夏の一夜かな」